

シンポジウム【HBO医療スタッフのタスク（働き方改革との関連）】

高気圧酸素治療における臨床工学技士の業務実態調査

赤嶺史郎 太田雅文 灘吉進也 坂上正道

野堀耕佑 金田智子 南谷克明 高倉照彦

日本臨床工学技士会 高気圧酸素治療業務検討小委員会

【日本臨床工学技士会HBO業務検討小委員会】

日本臨床工学技士会では各11の専門領域に対し、業務検討・検定（試験問題作成）委員会を設けている。我々業務検討委員会では8名が所属しており、各々が本学会においても理事や技術部会常任幹事・幹事を担当し、本学会と協力・連携しながら活動している。

主な活動内容は、①年1回の対面会議・3ヶ月毎のWEB会議、②日本臨床工学会委員会企画の検討、③業務基礎研修会（スライド・テキスト作成、eラーニング用動画作成）の実施、④HBO関連学会との協力・連携（転載許可申請含む）、⑤日本臨床工学技士会HBO基本業務指針の改定などが挙げられる。

【はじめに】

我々臨床工学技士（以下：CE）の業務範囲は益々広がりを見せているが、今後の更なる業務確立や診療報酬獲得などに向け、安定した業務基盤の構築のため業務実態調査が行われることは非常に重要である。そのうえで、回収率の高い調査結果は、その団体の協調性の高さを示す信憑性の高い資料となり、行政機関への政策提言や関連団体との折衝に使用する根拠にもなりえる。

今回、日本臨床工学技士会の業務実態調査2022における高気圧酸素治療（以下：HBO）の調査結果（有効回答数の高かった項目）について報告する。

【方法】

正会員23,485名（2022年10月3日時点）を対象に、個人調査（正会員）と施設調査（施設代表者）を行い、各調査項目（計11領域）について、日本臨床工学技士会会員情報システム「e-プリバド」内のアンケートを使用し、オンラインにより回収。集計結果は各委員会委員長へ配信され、その後日本臨床工学技士会会誌に掲載。

【結果】

個人調査の有効回答数は1,1405件（回収率：49%）、

HBOの専任者（5割以上従事）：0.5%（血液浄化43.2%）、兼任者：10%（保守管理55.6%）であった。施設調査の有効回答数は1,724件であり、そのうちHBO装置の設置施設は243施設であった。この243施設を対象とした追加調査では、①HBO実施件数（200以下：105施設／43.8%）、②第1種装置の保有台数（1台：202施設／84.2%）、夜間の待機状況（有り：125施設／51.4%）、災害（緊急時）訓練（有り：59施設／24.3%）、臨床実習受け入れ（有り：98施設／40.3%）、実習時間（2時間未満（41施設／41.9%））であった。

【業務実態調査2023】

2022年度の調査項目のほか、専任者・兼任者（総従事者数）、加圧方式（酸素・空気・両方）、診療報酬改定後の変化（新設・再開・増台・中断・継続）を新たに追加して実施する。

【考察】

- ①HBO装置を保有していると回答した243施設では、実施件数：200件以下／年が43.8%となっており、CEは主に第1種装置1台の施設で他業務との兼任（1日1～2件程度）でHBOに従事していると考えられる。
- ②HBOの夜間待機は過半数の施設で実施しているが、災害（緊急時含む）訓練の実施率は2割程度であり、今後はJACEにおいて訓練の実施を促すような企画を検討していく必要がある。
- ③HBO実施施設での臨床実習生の受け入れは4割程度。実習時間は1日未満（87.8%）と時間的には少ないものの、全施設でHBO臨床実習を実施している。
- ④毎年、調査項目を修正しながら、業務実態調査を継続していく必要がある。

【結語】

今回の業務実態調査でHBOは他の領域とは異なり、施設数460に対して回答数は目標の過半数を達成したが、まだ全体を網羅しているとはとてもいえない状況。

調査結果（数字）は大きな意味を持つため、HBOに従事するCEは積極的に回答することが必要である。

HBOは他領域より従事者数が少ないため、回答数ではなく回答率で評価できるよう回答率：70%超えを目指し、JACE理事会へ「モノが言える」団体となれるよう、本学会（技術部会含む）と協力・連携しながら活動を継続していく。